



Until we are all equal



Plan International

包摂的で 質の高い教育

2024年に得たエビデンスの概略



プラン・インターナショナルは、グローバル戦略: **立ち上げ、女の子たち**に基づき、人道危機への対応のみならず、6つの優先テーマ分野でのプログラム実施に焦点を置き、80超の国々で活動を展開している。

2024年末、私たちは活動対象国とプロジェクトから得た各テーマ分野のエビデンスについて、成果と評価、内部・外部による重要調査、年次報告書の数値・データを含めた検証を実施した。本概要では、包摂的で質の高い教育について真に求められていることを、2024年に得たエビデンスから明らかにし、そこから学ぶべきこととともに、その一部をまとめている。

プラン・インターナショナルでは、子ども、特に女の子が、充実した人生を送るために必要な質の高い教育を確実に受けられることに重点を置いて、包摂的で質の高い教育に取り組んでいる。中核となる重点分野は:

- 指導と学習
- 不就学の子どもとユース
- 学校運営
- 学校環境
- カリキュラムと教材

活動の詳細は[こちら](#)から



主要な洞察



- **教育セクターが直面している問題は極めて深刻な状況にある。**世界全体で、男子1億2,800万人と女の子1億2,200万人が教育から取り残されており、不就学の子どもはおびただしい数に上る。特に危機の影響を受けている状況下では、資金調達の困難を理由に教育全体でジェンダー平等と包摂を促進する取り組みの優先度が下げられる場合も少なくない。
- **誰もが包摂的で質の高い教育を受けられるようにするには、包括的モデルが有効なことは、プランのプログラム活動から明らかだ。**教師が継続的に専門的スキルを向上させるための支援等の取り組みと、家族に対する啓発と経済的支援を組み合わせて実施するといった戦略も、その1例だ。特に女の子が教育を受け、継続していくことを阻む障壁の根本原因に取り組むことが、その実現に向けた1つの鍵となる。
- **入学時点でジェンダーによる差がなければ、ジェンダー平等は達成されたとみなしがちだが、それは、現実に存在する不平等から目を背けることにもなりかねない。**この問題を解決するには、不平等を生む構造に取り組む、交差性の視点を取り入れる、状況に応じたデータを提供する、そして教師が変革の担い手となるための支援を行う、といった取り組みが必要になる。
- **社会的・経済的に最も困難な状況下であり、支援の手が届きにくい集団には、柔軟で質の高い代替教育の提供が必要になる場合が多い。**彼らが正式な教育を受けたり、容易に再開できる、あるいは、教育の遅れを取り戻したり、労働市場へ移行できるようなプロジェクトが求められる。標準的な手法で対応できない特定の問題がある場合には、代替的な方法を設計して取り組まなくてはならない。
- **状況の変化に応じて柔軟に対応できる質の高い教育を実現するには、開発・人道支援プログラムの原則を組み込むことが極めて重要になる。**教育の継続性が保証されるよう、危機時だけでなく事前のレジリエンス強化を優先して「準備を整え」、「危機に備えた」システムを作らなくてはならない。そのためには、教師と学習環境を整える、取り組みの終了後コミュニティが成果を維持していく力を身につける、女性と女の子が意思決定に参加する機会を増やす必要がある。



教育に関するプランのグローバルな取り組み



子どもと大人1,780万人

に包摂的で質の高い教育プログラムを提供



緊急時における教育に関する
35のプログラム
を28カ国で実施

(年次報告、2023年7月～2024年6月)



530万人の女の子

の教育機会が改善

ジェンダーの視点に立った学習者中心の包摂的な指導

93% の2024年観察対象となった教師が、ジェンダーの視点に立った学習者中心の包摂的な指導法を用いていると評価された



(7カ国で実施されている9つのプロジェクトに参加する900人超の教師から収集された観察データ)

教育の享受

85% のチャイルドが、正規教育に休まず通っており、内、84%は女の子だった



(110万人超のチャイルドと家族の年次調査データ)

教育への提唱活動

教育に関する**69件の働きかけの成功事例**があり、例えば:



女の子の権利に関する法律・政策・規制・指針に関する**28の変更**



女の子の権利の向上に寄与する、投資・予算・支出・制度・サービスに関する**11の取り組み**

(グローバル・アドボカシー戦略に基づく年次報告、2023年7月～2024年6月)

喫緊の課題は何か 主な調査結果

男子1億2,800万人と女子1億2,200万人が不就学である現状、初等・中等教育の修了率の改善の遅さ、伸び悩む教育関連費等、**教育セクターが直面している問題の大きさ**を示すエビデンスは豊富に存在する^{1,2}。紛争と、気候変動で深刻化する熱波・干ばつ・洪水等の異常気象により、危機的状況下にある就学年齢の子どもの数が増加している³。さらに、教師が最低限必要な資格を持つことの徹底とデジタル技術のメリットを活かした取り組みの進捗にもばらつきがある⁴。教育におけるジェンダー平等の実現には、今も社会規範と制度が障壁として広く立ちちはだかる⁵。そして今、多くの国々では、ジェンダー平等という世界的な概念や、教育で/を通じてジェンダー平等を優先する動きに対する反発と拒否が起きている。

「私は子ども全員に教育を受けさせたいと思います、それぞれ、科学のクラスや美術のクラスに通わせています。彼らには教育を修了してほしいと考えていますが、貧困が最大の課題です」

男性、54歳、ナイジェリア

プラン・インターナショナルが2024年、**ナイジェリア・レバノン・ブルキナファソ・マリ**等様々な状況下で実施した調査から、子どもと思春期の若者が不就学になる一番の原因は**経済のひっ迫**であることがわかった。ユースはまた、多くの場合避難や紛争に関連する他の障壁についても言及し、具体的には、書類の不備による就学手続きの難しさ・学校閉鎖やインフラの破壊・交通手段の欠如・教師のストライキや不在・暴力や薬物の存在等の危険な環境が挙げられた。

話し合いでは、女の子が教育を受け修了する上で**ジェンダー規範**が大きな障壁になっているという意見が挙がった。例えば、ナイジェリアのフォーカス・グループ・ディスカッションやインタビューでは、もはや一般的でないとはいえ、親の中には女の子の教育に投資する価値はないと未だに考える者もいる、と指摘する調査参加者もいた。レバノン在住のレバノン人とシリア人難民のユースを対象にした別の調査「*Adolescents between Siege and Hope*」では、女の子は

早すぎる結婚(児童婚)を理由に中途退学する場合もあると指摘された。「*現実の選択、現実の生活*」の調査対象の女の子は、生計手段を失った影響が教育に及ぶ際にもジェンダーの違いが表れると指摘し、男の子には学校費用を自身で賄うための収入を得る機会が多いが、女の子は機会が制限されていると述べた。

「母は働いているので、私は家で弟妹の世話をし、家の掃除をしなければいけません」

思春期の女の子、レバノン

2024年の調査では、**気候変動の教育への影響**も調査した。「*気候変動下を生きる太平洋地域の女の子*」や、「*未来のために: 気候正義と教育に関するユースの声*」等の報告書は、気候変動に関連する事象や危機に、誰もが同じように遭遇し、その脆弱性に違いがない訳ではなく、ジェンダー・年齢・教育・所得・地理的な位置その他さまざまな社会・経済的要素が交差し合う中で差が生まれていることを浮き彫りにした。インフラの損傷・通学中のリスクの高まり・復興に必要なリソース不足の深刻化等、さまざまな形で教育の提供が妨げられ、また、児童婚・犯罪・意図しない望まない妊娠等のリスクも高まっている。こうした状況下で、授業料の支払いが困難になる、または家庭の再建や収入創出活動を助けるために女の子が中途退学させられる可能性が高まっている。

「教室の屋根が風で損傷しました。修理するため、クラスを合同にする必要がありました」

Azia, 16歳、トーゴ

そのような状況でありながらも、「*現実の選択、現実の生活*」では、**調査対象の女の子は教育を重視し、注力していることがわかった**; 彼女たちは教育を、将来の目標達成につながる道だと考えていた。2024年実施された様々な調査で、復学を実現する鍵として、経済的支援・教育の大切さの認識・親のサポートが挙げられた。

「時々川が氾濫して、授業を欠席したことがあります」

Bessy, 17歳、エルサルバドル

ユースは、**学習や学校にいるときの気持ちの面で教師の存在は大きい**と語り、様々な経験をしていることがわかった。良い指導とは、行き着くところ、しっかりとしたカリキュラムに従うのはもちろん、適切な資格を持ってどんなときでも生徒のウェルビーイングと成績を支え、共感し、尊重する教師である場合が多い。また、対話型学習とデジタルリテラシーや

起業スキル等の科目をもっと重視してほしいとの声も上がった。だが、報告書全体から、難民が特に大きな影響を受けている実態も明らかになった。指導の質に差がある、言語の壁、あるいは学校で軽蔑されたり暴力を受けたことが、嫌な経験につながっていた。

「女の子も学び、将来仕事を見つける権利があるので、女子教育は有用です。そして、私たちの親は学校に行かなかったので、私たちは行かなければいけません」

Essohana, 17歳、トーゴ

「教師と生徒の間の温かい関係は、生徒のより良い学びにつながります」

思春期の男子、レバノン



「教師たちのやり方は時代遅れで、説明の仕方も知りません。殴ることが彼らの言葉なのです」

シリア人の思春期の男子、レバノン



¹UNESCO, OECD and the Commonwealth Secretariat, 2024. The price of inaction: the global private, fiscal and social costs of children and youth not learning.

²UNESCO. 2023. SDG4 Mid Term-Progress Review.

³Education Cannot Wait. 2023. Crisis-Affected Children and Adolescents in Need of Education Support: New Global Estimates and Thematic Deep Dives.

⁴UNESCO. 2024. 2023 Global Education Monitoring (GEM) Report.

⁵NORRAG. 2024. A Concerted Stride Towards Gender Equality in Education.

新たにわかったこと 主な評価結果

2024年、5地域・15カ国で行われた23件の教育プログラムについて評価の振り返りを行った。

評価では、子どもの入学・出席・在籍に関する好ましい結果が報告され、それらは、子ども・学校・家族に対する包括的な支援モデルにつながっている場合が多いことがわかった。特に、プロジェクトでは、教師の研修と施設改修や設備の提供といった物質的支援を組み合わせた活動を実施したり、コミュニティと連携して教育の重要性に関する啓発活動を行い、時には学用品支給・現金給付・収入創出活動との連携等の、直接的支援も実施された。

思春期の若者、特に女の子が教育を受け、継続することを阻む壁の根底にある問題に取り組むことが、解決の鍵であることがわかった。(例えば児童婚が絡む場合は)宗教的/コミュニティ指導者の関与が強く求められ、常習的な欠席や中途退学のリスクについては、PTAと連携して地元が責任を持って観察・対応することも、同様に指摘された。また、収入創出活動に焦点を当てたプロジェクトは、子どもを持つ家庭のニーズへの対応と就学継続への障壁を軽減する上で特に重要であるとみられた。これは、2024年のプランの調査テーマとも重なり、子どもと思春期の若者が不就学である一番の理由として経済のひっ迫を挙げ、特に女の子が大きな影響を受けていると指摘している。正規教育を休みがちなチャイルドでは、少数だが、家の手伝いをしなくてはならない、教育を重要だと考えていない、ことが理由になっている場合が多いこともわかった。

メンター制度や指導者研修、ピア学習プログラム、継続的な支援モデルは、教師を支える学習環境をつくる上で有効な手段となっている。例として、ベトナムでは将来の指導者候補者に複数の研修コース・経験共有ワークショップ・他省への研修訪問に参加する機会を提供した。

その後、彼らが自校外外の教師を対象にさまざまな研修を実施し、能力・知識・スキルについて教師の自信の向上につながったと、学校長や教師から評価された。

COVID-19パンデミック下で学びの提供方法を大きく変更する必要が生じた際にも、テクノロジーの活用等の代替学習手法は、そうしたニーズに対応できた。プロジェクトでは、一部の授業活動やクラブ活動をオンライン形式に移行する形で対応し、特に不就学の子どもや宿題・放課後の学習時間のサポートとして実施された。こうしたオンラインツールとプラットフォームによって、支援可能なエリアが地理的に拡大し、対象者の参加につながることができた。

学校のカリキュラムにキャリア開発を組み込んだことが、ユースが就労に備える上で役立った。例えば:

- ベトナムで行ったあるプロジェクトでは、生徒が職業の選択肢を探り、ライフスキルを身につけられるように、キャリア指向の教育プログラムをカリキュラムに組み込むための支援を実施した。同プログラムを通して徐々に、生徒は労働市場を理解し、進路の選択に自信が持てるようになった。生徒のニーズと希望に応えられる設計と生徒中心の手法が行われたことが、このモデルの成功につながった。
- エルサルバドルでは、女の子のSTEAM分野(科学・技術・工学・芸術・教養・数学)でのキャリア促進に焦点を当て、カリキュラムに指導の手引きと教師の研修を組み込んだ。実践的な学習とテクノロジー見学ツアーに重点を置いたことで、参加した女の子がこうした分野に興味を持つきっかけを作ることができた。

2024年、教育に関する提唱活動は、様々な国と地域で大きな前進を遂げた。例えば:

- 西アフリカでは、プラン・インターナショナルや他の関係者が何年にもわたる待機と努力を重ねた結果、安全な学校宣言の実施が各国政府の政治的公約に次々と組み込まれている。例えば、ブルキナファソは国家間省庁間技術委員会を設置し、宣言の実施に向けた行動計画を策定。ナイジェリアは、省庁間委員会を設置し、教育省が議長を務めて実施状況を監督している。同委員会では、安全で暴力のない学校に向けた国の政策実施に関する全国的な研修を実施する予定だ。ナイジェリア政府は2022年12月に安全な学校のための国の資金提供計画を採択し、西アフリカ諸国経済共同体地域における「安全な学校宣言」の実施に向けた推進役として評価されている。

- 人権理事会は、乳幼児教育・無償の就学前教育および無償の中等教育の権利に関する子どもの権利条約の選択議定書の策定に向けて無期限の政府間作業部会を設置する画期的な決議を採択した。私たちはドミニカ共和国・ルクセンブルク・シエラレオネの主導の下、他のパートナー組織と共に、同決議の採択を求め、特に議定書の策定に子どもが参加する重要性と、そうすることで女の子の権利と彼女たちの未来に対する効果が一層高まることを強く主張した。同決議は、国際法の欠落部を埋め、全ての子どもが乳幼児期から中等教育まで包括的な教育を受けられる世界の実現に向けた重要な一歩である。



思春期の女の子とユース女性が彼女たちに影響する問題に取り組むための安全な場を提供する、リーダーシップスクールに通う女の子たち、グアテマラ

©Plan International

一層の注力が必要な部分

2024年に得たエビデンスは、包摂的で質の高い教育を受け続ける子どもを増やすために、どこに投資し、どのようにプログラムを設計するかについて真に求められていることが何か、プラン・インターナショナルはもちろん、セクター全体に重要なメッセージを伝えている:

- **学習が社会性と情緒面にもたらす効果について、土台となるエビデンスを構築する必要がある。**これはプラン・インターナショナルと教育セクター全体の優先テーマであるが、2024年の評価で得られたエビデンスは限られている。このテーマに重点を置いて取り組みを進め、プロジェクトの設計方法や、子どもの学習と発育における成果を測定する方法を改善していく必要がある。
- **インフラ支援に関しては、当事者意識を継続的に求めていく必要がある。**危機下では、インフラ支援は最優先され、教育を途絶させている一番の障壁に対処する場が多い。危機的状況でなくても、インフラ支援が重要であることに変わりはないが、必要な改修に当事者意識を持つよう、各国政府や他の義務の担い手との協働および提唱活動を並行して行うことも、長期的に持続可能な変化を促す意味で極めて重要である。

- **根本原因の解消のために取り組み続ける必要がある。**教育に対する障壁を打破するには多角的な手法が必要だ。児童婚など女の子に悪影響を及ぼす問題に関してコミュニティや指導者と連携する、子どもたちの就学継続を阻む経済的な障壁に対応するために収入創出活動等を通じて、世帯に対して包括的な支援を行う、等が含まれる。また、男の子と男性を対象とすることで、有害なジェンダーに基づく考え方や行いなどのように挑んでいくか、彼らと協働し、ポジティブな男性性や教育の内外で好ましいロールモデルが果たす役割について深く考える、またとない機会が生まれる。



工房でロボット車両を作るChhiringと彼女の友人、ネパール ©Plan International

2024年の他の発行物はこちら:

「教育を止めない」: あらゆる子ども・思春期の若者・ユースのための、継続的かつジェンダー・トランスフォーマティブな、安全でレジリエンスがあり、包摂的で質の高い教育を支援するための有望な実践例集。教育セクターの現場で活動する者に対し、エビデンスに基づいた取り組みをツールキットとしてまとめたもの

「The Girls' Pact for the Future」: 思春期の女の子とユースが抱える不安と、心に描くジェンダー平等で望ましい未来の姿、さらに政策立案者への提言を示したもの

「Climate Change Education」: 気候変動教育に関するプランの取り組みの実績報告書であり、概念的枠組みの概要・プログラムと提唱活動の手法・プラン・インターナショナル全体による事例研究から得られた好事例を紹介したもの。



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じているが、それが貧困、暴力、排除、差別によってしばしば抑圧されていることを知っている。そして、その影響を最も受けているのは女の子なのだ。

子ども、ユース、支援者、パートナーとともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまで、彼らの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え・対応できるようにする。私たちの広がり、経験、知識を活用し、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年以上にわたり、私たちは80カ国超ですべての子どもたちの生活を変えるために、決意ある楽観主義者を結集してきた。

皆が平等になるまで、私たちは止まらない。

Plan International
Global Hub
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

- plan-international.org
- facebook.com/planinternational
- twitter.com/planglobal
- instagram.com/planinternational
- linkedin.com/company/plan-international
- youtube.com/user/planinternationaltv

表紙写真: 学校の学習庭園で、子どもたちが実践的な授業を楽しんでいる、カンボジア ©Plan International

免責事項: 本報告書で使用されている画像は、調査参加者のものではない。全ての画像の使用には、事前に同意を得ている。